

# 主な課題と課題に対する考え方（林野庁会議資料より 令和2年10月）

## 主な課題

- 造林作業の省力化・効率化
  - ・ 費用負担が大きいことが再造林の進まない主な要因。
  - ・ 造林の過酷さにより必要な労働力が不足するおそれ。

- 苗木の安定供給体制の構築
  - ・ コンテナ苗の生産技術の確立が必要。
  - ・ コンテナ苗生産の効率化とコスト縮減が必要。
  - ・ 造林の動向等、他律的な因子に左右されやすい経営環境。

- エリートツリー等の利用の拡大
  - ・ 特定母樹の指定は進む一方、エリートツリー等の生産・出荷は一部の県に留まる。

- 鳥獣被害対策の強化
  - ・ シカ被害は深刻な状況であり、被害防除対策の強化が必要。

## 課題に対する考え方

- ✓ 造林適地で積極的な再造林をできるよう造林適地の選定に向けた手法を開発。
- ✓ 伐採と造林の一貫作業や低密度植栽、下刈り回数の削減等の実証結果を制度や事業に適用し、造林作業の軽労化・低コスト化を徹底。
- ✓ 造林作業の機械化やドローンを活用した苗木運搬の開発・実証を加速するとともに、現場への実装を推進。

- ✓ 生産技術の標準化や高度な育種・育苗技術の開発・普及を推進。
- ✓ 生産施設の整備や幼苗生産の委託など生産工程の合理化の取組を進め、苗木生産の効率化を図る。
- ✓ 生産者と需要者間の需給情報の共有や苗木の予約生産等の取組を普及し、安定的な種苗の流通を促進。

- ✓ エリートツリー等の原種苗木増産を進め、採種採穂園の造成を加速。
- ✓ 国有林でモデル林を設定するなど施業体系を整理しつつ、エリートツリー苗木の利用を拡大。

- ✓ 林業関係者のシカ捕獲への参画の促進や、関係行政機関や猟友会など地域関係者が連携した実行体制の確立を図る。
- ✓ シカの捕獲や生息状況把握に関する新たな技術の開発・実証を推進。

# 岡山県における再造林の推進の主な課題の整理

## 主な課題

### ○ 造林作業の省力化・効率化

- 費用負担が大きいことが再造林の進まない主な要因。
- 造林の過酷さにより必要な労働力が不足するおそれ。

### ○ 伐採作業と造林作業の連携

- 伐採時に再造林等に係る費用の明確化が必要。
- 安心して作業を任せられる事業者の育成が必要。

### ○ 苗木の安定供給体制の構築

- コンテナ苗の生産技術の確立が必要。
- コンテナ苗生産の効率化とコスト縮減が必要。
- 造林の動向等、他律的な因子に左右されやすい経営環境。

### ○ 鳥獣被害対策の強化

- シカ被害は深刻な状況であり、被害防除対策の強化が必要。

## 課題と課題に対する考え方

- ✓ 造林適地で積極的な再造林をできるよう造林適地の選定に向けた取組を推進。
- ✓ 低密度植栽、下刈り回数の削減等の**実証を実施するなど**、造林作業の軽労化・低コスト化を徹底。
- ✓ 造林作業の機械化やドローンを活用した苗木運搬の開発・実証を加速するとともに、現場への実装を推進。

- ✓ 伐採・再造林に対する**ガイドライン**を作成し、林業事業者が守るべき基準の明確化や伐採と造林の一貫作業や連携の取組を推進。
- ✓ 林業事業者の自主的な行動規範を公表するなど、責任ある林業事業者の育成が急務。

- ✓ 生産技術の標準化や育種・育苗技術の開発・普及を推進。
- ✓ 生産施設の整備や**育苗期間の短縮化技術の導入等**による生産工程の合理化の取組を進め、苗木生産の効率化を図る。
- ✓ 生産者と需要者間の需給情報の共有や苗木の委託生産等の取組を普及し、安定的な種苗の流通を促進。

- ✓ **獣害防護柵等の設置基準の作成**や効率的な管理手法の確立。
- ✓ シカの捕獲や生息状況把握に関する新たな技術の開発・実証を推進。